



【イエスのように日々御言葉にとどまる】

聖書本文:マタイの福音書4章3-13節/ 暗唱:詩篇119篇105節
「あなたのみことばは私の足のともしび、私の道の光です。」

説教者:鄭南哲牧師
(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

GWのお休み期間はいかがお過ごしでしたか。また明日から始まる職場でのお働き、子どもたちの全学校生活がキリストの平安のうちに守られ、祝福されますように切にお祈り申し上げます！

夫婦の歳月が経てばたつほどお互いに良い面も、悪い面も似て行きますね。「父子相伝(ふしそうでん)」ということわざもあるように子供もいつの間にか親の外見だけではなく、親が持っていた習慣、癖、言い方、性格、姿勢など似ていくはずなのです。なぜでしょうか。

夫婦と家族は愛の共同体であり、一番親密な関係だからです。つまり、一番よく時間を過ごし、一番一緒にする時が多く、良いことでも悪いことであっても一番よく知っている一番近い関係だからこそ、お互いに影響を及ぼしているのではないのでしょうか。ですからある場合に、親からあまり愛情を頂いたことがなく、かえって親から色々傷つけられることが多かった方々も、自分は親のように悪い癖は絶対しないと言いながらいつの間にかにその悪い癖を自分も繰り返している姿を経験する場合もあるわけです。

それほど人は愛すればあいするほど、親密になればなるほど、近づければ近づくほどその人を本能的にまねいて、似ていく存在であることが分かります。

愛するみなさん、クリスチャンという名前の意味は、キリスト者という意味なのです。つまり、クリスチャンたちは主イエスキリストを受け入れ信じ、愛し、日々生活の中でイエスキリストとともに歩みつつ、親密な交わりをしながら、ますますイエスキリストの似姿となっていくのは本来のクリスチャンたちの生きざまなのです。ところは、残念ながら今日の多くのクリスチャンたちは、イエスキリストに焦点を合わせるよりも、自身が欲しがらる祝福、願いがかなえられるかどうか、答えられるかどうかばかりにしか関心が偏っているように見えます。

その体表的な姿が、先週我々が学んで祈る姿を見れば、すぐ確認できるでしょう。日頃キリスト父なる神様との親密な愛の交わりとして、祈る方々は常に、優先的に祈ることを大事にされますが、そうではないクリスチャンの場合は、祈りを何か問題や悩みがある時、祈り課題がある時に祈ろうとし、いつも祈りが後になっている場合が多くあります。

私たちが今年23年度の教会標語として「イエスとともに・イエスのように生きる」ことを目指すのは、イエスキリストがこの地上でおられた時に、見せて下さった行いを儀式や律法みたいに祝福のために守り行うためではなく、より親しく父なる神と、御子イエスキリストと、聖霊の神様と日々交わっていくため、愛するためであります。そして、少しでも、クリスチャンとして、イエスキリストの似姿に変えられて行くためであります。

そうなるために私たちはイエス様がこの世の中でおられる時に、よく表わして下さった姿と行いに焦点をあわせて、我らもそう似ていくために、主の尊い習慣として私たちがともに学んでいこうとしています。それで、先週には、イエスキリストのように祈ることを学ばされました。さっそく、GW期間中にも続いた早天祈りに普通の時より多くの方々が参加され、静まってイエス様のように切に祈る姿を見て本当に感謝でした。

今日は主イエスキリストが我々のため見せて下さった姿の中で、我らにもその尊い習慣として、身につけられるようにしたいのは、日々聖書の御言葉にとどまる姿が我らの大切な習慣となるように学んで見たいと願います。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさんは、クリスチャンになってから、神の御言葉なる聖書に対して、個人的にどんな習慣を持っていたらいいですか。本日礼拝に来られた方々には、ひとまず、確実に持っていたらいいのは、毎週日曜日、主の日に教会で礼拝をささげながら、聖書の神の御言葉に傾聴されるとても良い習慣を持っていたらいいことに本当に感謝ですが、日曜日の礼拝の時以来、後一週間個人的にはいかがでしょうか。

<1. 神の御言葉を語り続け、神の御言葉を成就させるため来られたイエスキリスト>

この世に来られた神の御子イエスキリストは、いつも神の御言葉から離れず、神の御言葉を語り、教え続けられました。イエスキリストがお生まれになる時から、十字架で死なれ、よみがえられるすべては、すでに神の語られた御言葉を成就するため、神の御言葉の予言通りにすべてを成し遂げるための神の御業をなされたお方であることが分かります。

* マタイの福音書1章22節「このすべての出来事は、**主が予言者を通して語られたことが成就するためであった。**」

* コリント人への手紙第一15章3~4節「**私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、4また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられた。**」

ヨハネの福音書では、この世に来られたイエスキリストに対し、こう証言をしてくださっています。

* ヨハネの福音書19章28節「それから、イエスはすべてのことが完了したのを知ると、**聖書が成就するために、「わたしは渇く」と言われた。**」

* ヨハネの福音書3章34~36節です。

「34神が遣わした方は、**神のことばを語られる**。神が御霊を限りなくお与えになるからである。35父は御子を愛しておられ、

その手にすべてをお与えになった。36御子を信じる者は永遠のいのちを持っているが、御子に聞き従わない者はいのちを見ることがなく、神の怒りがその上にとどまる。」

<2. 神との愛の親密な関係を保つために>

この世に来られたイエスキリストは、いつも神の御言葉中心とした生き方と習慣を大切に持っておられたことが分かります。日々祈る時も、語る時も、教える時も、御業をなす時も、いつも神の御言葉を通して、神の御言葉に従っておられたお方です。なぜでしょうか。**神の御言葉にとどまることが、父なる神とつながることであり、交わることであり、神の御心がなされる道**であったからです。イエス様はこう教えて下さっています。

***ヨハネの福音書15章10節(John)「わたしがわたしの父の戒めを守って、父の愛にとどまっているのと同じように、あなたがたもわたしの戒めを守るなら、わたしの愛にとどまっているのです。」**

***ヨハネの福音書15章7節「あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまっているなら、何でも欲しいものを求めなさい。そうすれば、それはかなえられます。」**

***ヨハネの福音書14章23節「イエスは彼に答えられた。「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。」**

我らも神と愛の関係の中にとどまり、日々親しい交わりを経験したいなら、キリストの御言葉の中にとどまることを大切にしなければなりません。

***「あなたがたは、わたしのことばにとどまるなら、本当にわたしの弟子です。32あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。(ヨハネの福音書8章31中-32節)」**

<3. 人生の勝利に導く御力となる神の御言葉>

聖書で使徒ペテロは我々が人生を送る時に、苦難に直面することを珍しく思ったり、おかしいことだと思わないようにと勧めています。

***ペテロの手紙第一4章12節**です。「**愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間で燃えさかる試練を、何か思いがけないことが起こったかのように、不審に思っ**てはいけません。」

つまり、この世の中を歩く人生の中では、思わぬ試練に合うときがいくらでもあることを示す御言葉です。

この世に来られたイエス・キリストご自身もお生まれになった時、救い主イエスキリストを殺そうとしてベツレヘムで2歳以下の男の子たちをすべて虐殺しようとする試練から、今日の本文、**マタイの福音書4章**でも、イエスキリストが公に神の御国のお働きを始められ、まずユダの荒野で40日断食しながら祈られた直後に、悪魔がイエス様に近づき、イエス様を墮落させようと試みる内容が詳しく書かれています。

大切なのは、イエス様がどうやってこの試みを乗り越えることができたかでしょう。

一言で言うと、それは神の御言葉を用いたためであることが分かります。

今日の本文を詳しく見ると、三度もイエス様は「**書いてある(4, 12節)**」とか「**言われている(8節)**」と言われました。

神の御言葉(聖書)は、単なる書物ではありません。単なる小説やエッセイみたいな良い内容の物語が書かれている本でもありません！**聖書はすべてを守り、強くすることが出来る神の力であり、剣のような神の御言葉**であります。

人の心、思いも、人生も、すべての関係を変えることが出来、様々な誘惑や試みに対して、自分を守るだけではなく、十分に**対抗することが出来るように、打ち勝つことが出来る神の力と知恵あるものであります！**それをご存じあったイエスキリストご自身も、悪魔の試みに対し、**何よりも、神の御言葉を引用し、神の御言葉を用いて悪魔に対抗し、計略に見極め、追い出すことが出来ました。**

***マタイの福音書8章16節、「夕方になると、人々は悪霊につかれた人を、大勢みもとに連れて来た。イエスは**ことばをもって悪霊どもを追い出し、病気の人々をみな癒された。**」**

神の御言葉対し、ヘブル人への手紙4章12節では「**神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまで刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。**」

***ヨハネの黙示録1章16節**で、神の御言葉は、(キリストの)口から鋭い両刃の剣であると言われています。

しかし、今日の本文の中とてもおもしろい部分は**悪魔も聖書の神の御言葉を引用した**ことでもあります。

本文11節で「**書いてあるから。**」これも悪魔が言った言葉です。彼は**詩篇91篇11-12節の御言葉**を引用したのです。

ですから、我々が色々試みられ、悪魔と戦って打ち勝つためには、悪魔よりもっと神様の御言葉を知らなければなりません！**まるで、今日色々異端から打ち勝つためには、異端より聖書の御言葉をよく知らなければならぬのと同じです。**

***ペテロの手紙第一5章8節**の御言葉に、「**身を慎(つつし)み、目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、かれかを食い尽くそうと探し回っています。**」

祈りと御言葉がなければ、このような状況の中では勝利しがたいです。

我々が試みに陥られた時を振り返って見ると、かならず**共通点**があります。

祈りをなおざりにするとき、そして何よりも御言葉から離れてしまうではないでしょうか。

ですから、試みに打ち勝つためには御言葉を近くにおき、心にとめておきましょう。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!

悪魔の試みから我々を守り、勝利を得させる一番強力な武器は何でしょうか。

それはいつも神様の御言葉が思い出されるように、神の御言葉を黙想し、覚えつつ、神様の御言葉を近くに置くことです。

私たちが神様の御言葉を握っていれば、御言葉が我々をつかまります。

我々がいくら救われただと言っても、御言葉が我々の中で生きていて働かなければ、我々はいつ悪魔のエサになるか分かりません。ですから、イエス様も弟子であったペテロにこう言われました。

[御言葉の習慣が必要な理由]

我々に御言葉の習慣が必要な理由として試みを打ち勝つためだと調べました。しかし、それにもかかわらず、人のよわさのため試みに陥られてしまったなら、どうやってその窮地(きゅうち)から抜け出すことができるでしょうか。そのとき、また必要とされることも御言葉です。ペテロはイエス様を三度否定してどうやって悔い改めることが可能になりましたか。

イエス様が言われた言葉を思い出したからです。

*ルカの福音書22章61-62節を見てみてください。

[主が振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、「今日、鶏(にわとり)が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います。」と言われた主のことばを思い出した。62彼は、外に出て行って、激しく泣いた。]

何がペテロを悔い改めの座に導きましたか。主の御言葉です。イエス様のおことばを思い出したのです。

しかし、ふだん、御言葉を自分の中に蓄(たくわ)えておかなければ、どうやってその言葉を思い出すことができるのでしょうか。

もちろん、聖霊が願うならば、自分が聞いたこともない御言葉を思い出させてくださるかも知れません。

しかし、一般的な聖霊の約束はヨハネの福音書14章26節の御言葉のように、「…わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」そういうわけで、聖書の御言葉を学ぶ、読む、覚える習慣、黙想するなど習慣はとても大切なのです。

聖書の御言葉を心にとめるのは、消極的には我々を試みから守り、抜けさせてくださることだけではなく、積極的には我々をきよめてくださると約束されます。それは詩篇119篇9節の約束です。

「どのようにして若い人は自分の道をきよく保つことができるでしょうか。あなたのみことばのどおりに道を守ることです。」

ところが、我々がどうやって御言葉によって守られるのでしょうか。

その答えが11節にあります。「私はあなたのみことばを心に蓄えます。あなたの前に罪ある者とならないために。」

実際に、どうやって主の御言葉を私たちの心にたくわえておきながら生活できるでしょうか。

それがまさに聖書読んだり、黙想したり、学んだり、暗唱する習慣を身につけ、自分の習慣になるようにすることではないでしょうか。つねに御言葉を心にとめておくと、いつでも御言葉を思い出すことができるのです!

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん。イエス様が十字架につけられる前夜弟子たちのためにさげられた最後の祈りを覚えていますか。イエス様にとって大切な祈りは何でしたか。

それは「弟子たちがこの世の悪に陥らないで、きよく生きること」でした。

ヨハネの福音書17章15節を見て見ましょう。

「わたしが願うことは、あなたが彼らをこの世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。」

それはどうやって可能だったのかイエス様はどう思われたのでしょうか。続けてイエス様の祈りの内容を聞いてみてください。

「真理によって彼らを聖別してください。あなたのみことばは真理です。(ヨハネの福音書17章17節)」

この理由で、イエス様は我々に神の御言葉をプレゼントとして与えてくださったのです。

しかし、我々はこの大切な神の御言葉をどれだけ活用していますか。

使われてない武器は無用です。神の御言葉になれるように、神の御言葉を絶えず近くにおいているでしょうか。御言葉から離れているみなさんの生活ではないでしょうか。

そして、たびたび黙想しつつ、心の中においておきましょう。それこそ、我々がきよめされる唯一な道なのです。

<4. 神の御心を成し遂げる神の御言葉>

神様の御言葉を読み、聞いて、覚えることが、神様の御心を成し遂げることとどんな関係があるのでしょうか。

聖書の御言葉自体が神様の御心の啓示です。ですから、御言葉を近くに置き、黙想し続けなれさせて行けば、神様の御心を正しく見分け、その御言葉通り、実行できるように我らを力づけ、導いて下さるのです。

旧約聖書のイザヤ預言者はあらかじめ、こう言いました。

[そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、わたしのところに、空しく帰って来ることは来ない。それは、わたしの望むことを成し遂げ、わたしの言い送ったことを成功させる。](イザヤ55章11節)

神様の御言葉は子供の教育にも大いに用いられます。

親が子供たちと神様の御言葉を一緒に読み、暗記し、討論し合う姿よりすばらしい場面があるのでしょうか。

自分の子供に3年間300箇所を暗唱させたお母さんがいます。この方が書いた本[聖書を食べさせる母]が韓国でベストセラー

一になりました。実際、むかし、ユダヤ人の親たちの一番の責任は子供たちに聖書を愛し、読ませ、暗唱させることでした！
ですから、時々、ユダヤ人の親たちはトラーである御言葉が書かれた巻物にはちみつをぬって、聖書を読みながら蜂蜜をなめるようにしたそうです。すると、この御言葉を読む子供たちは“なんと神様の御言葉は蜂蜜のようにあまいのか。”と告白したそうです。[聖書を食べさせる母]の著者は自分の子供に毎日神様の御言葉を暗唱させながら自分が経験した祝福をこのように証しています。

“神様の御言葉を暗唱することは、神様を自分の中に受け入れることだ。その方のおことばを自分の中において、時々刻々御言葉のとおりに従い、その方と共存できないあらゆる汚れた欲望と、情欲とねたみ、怒り、挫折と無愛をイエス様の助けによって取っていただくのだ。そして聖書の暗唱はすでに自分の中にある祈りの答えだ。むなしいことに試みられない完全なる信仰によって日々新しく、生まれ変わるのだ。死ななければいけないほどの罪人である自分を恐れなく見つけることであり、まことの平安と安息を得るために神様にもたれることだ。これがまさに聖書を暗唱をする理由である。”だと告白しています。

公の働きを聖書の暗唱から始まったイエス様はその生涯を十字架の上で御言葉を暗唱しながら神の御心を全うされたのです。

「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。(マタイ27章46節)これは本来詩篇22篇1節の御言葉だったのです。

「父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます。」(ルカ23:46)

この告白は詩篇31篇5節の御言葉でした。イエス様はまさに苦しみのその瞬間でさえ暗唱されていた御言葉を黙想しながら十字架をとおして神様の御心を成し遂げようとされました。御言葉を覚えながら十字架での苦しみを耐え、ついにあがないのきよい使命をはたした後、イエスキリストは“すべてが全うされた”と叫びました。

<5. 我らを救い出し、整えさせ、生かす神の御言葉>

また、神の御言葉(聖書)は、我らを生かし、救い、導き、相応しく整えさせます。

テモテ人への手紙第二3章15-17節では、「聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます。16聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。17神の人がすべての良い働きのためにふさわしく、十分に整えられた者となるためです。」

「これこそ悩みのときの私の慰め。まことにあなたのみことばは私を生かします。(詩篇119篇50節)」

「私はひどく苦しんでいます。主よ。みことばのとおり私を生かして下さい。(詩篇119篇107節)」

「みことばによって私の歩みを確かにし、どんな不法にも私を支配させないで下さい。(詩篇119篇133節)」

「あなたのみことばは私の足のともじび、私の道の光です。(詩篇119篇105節)」

愛するみなさん！

今日このような聖いイエス様の御言葉の習慣に我らもチャレンジしてみませんか。日々神の御言葉が自分の思いとなり、自分の言葉となり、行動となるなら、人生は変わるはずでしょう。神の御言葉が人生の基準となれば我々の人生は揺るぐことなく、さらに御こころ通りになされ、祝福されていくと信じます。もっと遅れる前に“聖書”のきよい習慣を自分の習慣として慣れさせ、残りの人生が以前よりさらに聖書に約束された神の力と知恵による勝利と豊かな人生を日々直接経験するされるように5月の全クリスチャンプレイズチャーチの神の家族となりますよう主の御名によって祝福します。アーメン!